

第63回

日本伝統工芸富山展

金工 漆芸 木竹工 陶芸 染織 人形 諸工芸

令和6年 5月24日(金) ~ 6月2日(日)

午前9時30分~午後5時(入場は4時30分まで)5月24日(金)は午前10時30分から(月曜休館)



日本工芸会賞 銅鑄盤 般若 泰樹 作



高岡市美術館

観覧料 一般800円(640円) / シニア640円 / 大学生500円(400円) / 高校生以下 無料

○()内 団体料金 20名以上

○シニアは65歳以上

○身体障がい者・精神障がい者保健福祉・療育の各手帳所持者及び付添いの方(1名)は半額です。手帳をお持ちください。

(公財)高岡市民文化振興事業団

主催 高岡市美術館 / (公社)日本工芸会富山支部 / (公社)日本工芸会 / 北日本新聞社

後援 文化庁 / 富山県 / 富山県教育委員会 / 高岡市 / 高岡市教育委員会

NHK 富山放送局 / 北日本放送 / 富山テレビ放送 / チューリップテレビ

富山エフエム放送 / とやまソフトセンター

高岡市美術館 〒933-0056 富山県高岡市中川1-1-30 TEL 0766-20-1177

URL <https://www.e-tam.info/>

趣 旨

伝統工芸は単に古いものを模倣し、従来の技法を墨守することではありません。受け継いだ優れた技術を一層錬磨すると共に、現代に即した新しいものを築き上げることが、我々に課せられた責務であると信じます。

公益社団法人日本工芸会富山支部は1961年に北陸支部より独立・誕生し、今年で創立63周年を迎えます。

第63回 日本伝統工芸富山展は、金工・漆芸・木竹工・陶芸・染織・人形・諸工芸、計7部門の公募作品・受賞作品に加え、重要無形文化財保持者（人間国宝）を含む全国著名作家の作品を一堂に展示します。

開会式

5月24日(金) 午前10時～
エントランスホール

作者が語る研究会

5月25日(土) 午後3時～5時
地階 ビトークホール
自由参加（一般の方もご参加いただけます）

会期中同時開催 (公社)日本工芸会 富山支部会員小品展 地階ミュージアムショップ

— 本展の公募について —

出展は未発表の作品に限ります。詳しくは公募要項をご覧ください。要項は、高岡市美術館内 日本伝統工芸富山展事務局よりお取り寄せいただくか、下記より富山支部公式 Facebook でもご覧いただくことができます。作品搬入に先立ち、事前の出展申し込みが必要です。



日本工芸会富山支部
公式 Facebook ページ

審査員

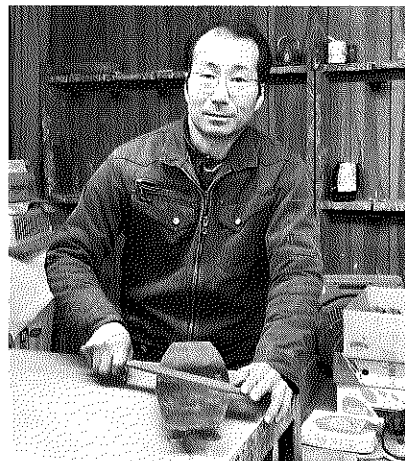
小森 邦衛	重要無形文化財保持者[漆芸]
今井 陽子	国立工芸館 主任研究員
桐井 昇子	富山県水墨美術館 副館長・学芸課長
村上 隆	高岡市美術館 館長
林 哲三	日本工芸会正会員[木竹工]

順不同 敬称略

列品解説 各々 午後2時～3時

5月25日(土)	金 工 (般若 泰樹)
	漆 芸 (林 暁)
26日(日)	金 工 (畠 春斎)
	陶 芸 (金田比陶美)
6月1日(土)	木竹工 (林 哲三)
	諸工芸 (長岡 達雄)
2日(日)	漆 芸 (吉川 則行)
	染 織 (山下 郁子)

～ 工房紹介 ～



「 鋳銅盤 」

鋳金とは、金属というかたい物質を自分の思い通りの形に造り変えることである。

その中でも鉄は、1,500℃、青銅は1,200℃に熱すると本来のかたいイメージからは想像もつかないほど変化し、さらさらと流れる液体となる。

この性質を利用して、金属の中に潜んでいる硬さと柔らかさを活かした作品づくりに、日々挑戦している。

金工部門 般若 泰樹 さん

※開館状況など最新の情報は、ご来館前に当館ホームページなどでご確認いただくことをお勧めいたします。



高岡市美術館HP